

2012年度

公益財団法人東京子ども図書館

# 年次報告

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10

2013年7月発行

Tel. 03-3565-7711 Fax. 03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

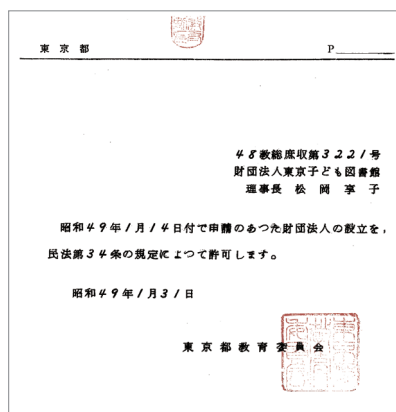
## 40周年を目前にして

理事長 松岡享子

家庭文庫を足場にささやかな図書館活動をつづけていた仲間が、無謀にも（まったく！）私立の図書館をつくりたいとの希望をいだきはじめてのは、ほぼ半世紀前のことになります。わけもわからず石井桃子さんに連れられて弁護士事務所へ行った日からはじまって、2DKのアパートを借りて設立委員会を発足させ、なれない書類を作成し、お役所へ足を運び……と、もうさだかには思い出せないさまざまなことを経て、東京都教育委員会から正式に財団法人設立の許可を得たのは1974年1月31日のことでした。ということは、来年の1月で設立40周年ということです。40年——その1年1年に365日あり、その1日1日を、大勢の人といっしょに、頑張って働いてきたんだなあ、と、わがことでありながら、わがことでないような、ふしぎな気持ちでふりかえています。

40年前にはなかったもので、今あるものはなんでしょう？ レンガづくりの建物、2万冊を超える蔵書、303万冊を超える出版物、49,000名に達した講演、講座、講習会に参加された方々、4,000名を超す機関誌の購読者、そして、なにより1,800名の賛助会員。

建物や蔵書もさることながら、わたしたちの仕事の実りでもあり、支えでもあるのは、この40年に関わりをもつことになった“人”です。憲法によれば、わたしたちの国は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して」国の安全と生存を保持するとあります。それにならば、東京子ども図書館は、「子どもと本を愛する人の熱意と関心に信頼して」仕事をしています。ことあるごとに述べてきたように、財団法人としてのわたしたちの財産は、銀行預金や不動産にあるのではなく、人にあります。「子どもと本を愛する人」こそ、わたしたちがより頼む財産なのです。さらにいえば、その人たちの胸にある「思い」こそが、わたしたちの力の源なのです。



財団設立許可書 1974年



## 在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援活動

現在、日本で暮らすブラジル人は約 21 万人を数え、愛知県・静岡県を中心に、学校での外国籍の子どもたちの存在感も増えています。日本語の読み書きに抵抗のある子どもたちに、本とことばに親しむ入り口が開かれることを願ってはじまったこの活動も、4 年を経過しました。昨秋発行の機関誌 135 号で特集を組むなど、これまでの活動を見渡し、新たな広がりをもたせる段階にきています。



### 日本の児童書を贈るプロジェクト

2010 年度、2011 年度に引き続き、豊橋市の日系ブラジル人の子どもの多い、小学校・保育園・放課後教室等 15 団体に、日本の児童書セット（23 冊 1 セット）を贈りました。日本の子どもたちに親しまれている本を選び、ポルトガル語の解説文を付けることで、ブラジル人の子どもたちと本がつながるきっかけができています。外国人教育相談員の方が読み聞かせに使ったり、図書室に置いてブラジル人の親子に貸し出したりと、活用されています。このプロジェクトにも一般社団法人霞会館の助成をいただいています。



### ブラジルの昔話を含めたお話し会

当初から、愛知県豊橋市を中心に活動してきましたが、2012 年度は新たに、岡崎市の小学校でもお話し会を開き、児童のみならず、教職員、地域ボランティアの方々にも、お話し会の楽しさを伝えることができました。語り手である平田美恵子さん、佐藤千代子さん、下澤いづみさん、「豊橋おはなしろうそくの会」のメンバーのみなさんにご協力いただき、小学校 5 校、計 16 クラスで、お話し会を開催し、小冊子「ブラジルのむかしばなし」を届けました。

また、夜に「おとなのためのお話し会」も 4 回開催したところ、保護者や、地域で支援活動に関わる方々、延べ 146 名の参加がありました。お話しを聞くのがはじめてという保護者の方が、子どもと一緒に楽しんでくださり、口コミでリピーターも増えています。このお話し会の開催にあたっては、一般社団法人霞会館から助成をいただきました。



### 「ブラジルのむかしばなし」2、3 集の刊行

2011 年 3 月に刊行した、日本語とポルトガル語で読めるお話し集「ブラジルのむかしばなし」第 1 集（初版 2,000 部）の配布は、予想以上に子どもたちによるごばれ、2011 年 6 月に 2 刷 2,000 部、2012 年 8 月には 3 刷 3,000 部と版を重ねることとなりました。制作・増刷には、一般社団法人昭和会館からの助成を受けました。

また、続編を期待する声におこたえし、2013 年 3 月には、第 2 集、第 3 集を刊行しました。第 1 集同様、ご自身で訳されたブラジルの昔話を語ってこられた平田美恵子さん、ブラジリア大学の関野京子先生、ユリ・クニヤ・ファウルスティッシュさんにご協力いただきました。制作にあたっては社団法人東京倶楽部からの助成を受けました。

この 3 冊の本は、お話し会とともに、子どもたちに無料で届けることにしています。

なお、地域でご活用いただけるよう、公共図書館・学校図書館へは各館 1 セットを献本いたしますので、ご連絡ください。また、当館や書店で販売もしています。

今後さらに、地域、学校との連携を広げることを試みながら、活動をしていきたいと考えています。各地で日系ブラジル人の子どもへの支援活動をしている方がいらっしゃいましたら、当館まで情報をお寄せください。

## 一年のあゆみ

### 4月

- ・昼のお話会（13日、7/13、10/12、1/24）
- ・第7期わらべうた連続講座（19日、5/17、5/31、6/21、7/5、7/19）
- ・第29期お話の講習会オリエンテーション（20日）
- ・児童室おばあさんのいす（21日、他9回）

### 5月

- ・児童室こどもの日開館（5日）
- ・T&T「シビル・ウェッタシンハ氏をお招きして」（25日）
- ・中野区立江原保育園招待（29日、他2回）

### 6月

- ・中野区立江原小学校でお話（12、13、15日）
- ・「3.11からの出発」チャリティお話会（22日、9/17）
- ・T&T「黒ネコジェニーとなかまたち」（23日）
- ・第17期子どもの図書館講座（29日、7/27、9/28、10/19、11/30、1/25、2/22、3/22）

### 7月

- ・西尾哲夫氏・茨木啓子氏講演会（3日）
- ・短期お話の講習会初級コース（12日、9/13）
- ・池田正孝氏スライドとお話（20日、10/12）
- ・児童室夜のお話会（21日）
- ・「絵本の庭へ」ブックフェア（24～28日）
- ・練馬区立開進第二中学校2年生職業体験（25、27日）
- ・T&T「『絵本の庭へ』ができるまでと使い方」（26日、9/14）

### 8月

- ・わらべうた1日講座（7、21、22日）
- ・子どもの図書館講座・初級コース（31日、9/21）

### 9月

- ・「うれしいさんかなしいさん」刊行（9日）
- ・T&T 佐藤宏子氏「石井桃子先生とウィラ・キャザー」（11日）
- ・やはたみずのとう幼稚園（中野区）招待（12、19日）

### 10月

- ・赤羽茂乃氏講演会（6日）
- ・学習院初等科でお話（26日）

### 11月

- ・バザー（23日）

### 12月

- ・かつら文庫クリスマス会（15日）
- ・児童室クリスマス会（22日）

### 1月

- ・暖炉で楽しむお話会（26、27日）

### 2月

- ・江原小学校3年生学級招待（5日）
- ・第28期お話の講習会修了お話の会（11日、修了式3/1）

### 3月

- ・かつら文庫ひなのつきオープンハウス（2日）
- ・「ブラジルのむかしばなし」2・3刊行（27日）
- ・賛助会員の集い（30日）

## I 概況

公益財団法人になって2年半がたちました。震災の影響が尾を引いているのか、子どもの利用は伸び悩んでいます。講演・講座、出版等の事業は活発に進展しました。

年度前半は、刊行されたばかりの基本蔵書目録「絵本の庭へ」の販売促進に力を注ぎました。その甲斐あって、新聞、雑誌、ラジオ番組にも取り上げられ、売れ行きに弾みがつきました。年度内に増刷を3回し、累計刷数は8,500部となりました。7月に催したブックフェアにも大勢が足を運ばれ、1,157冊の展示絵本を熱心にながめていらっしゃいました。

陸前高田市を中心とした復興支援プロジェクト「3.11からの出発」では、小友小学校訪問やトレーラーハウス図書館「ちいさいおうち」への支援などを継続しました。また、一昨年より逐次発行を続けてきた「被災地の子どもたちに届けたい本」のリストは、最終の第10集まで完成しました。

このプロジェクトを支える資金を得るために、松岡理事長が文と絵を手掛けた絵本「うれしいさん かなしいさん」の制作も進められました。こちら、9月はじめの刊行以降、増刷が2回、累計販売数は約10,000部に上りました。このキャラクターと楽しく遊んでもらうためにペープサートも作りました。

もうひとつのプロジェクト「在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援」も2頁のとおり活動の幅を広げています。

さらに、故石井桃子さんのご自宅や隣接する建物を有効活用するための改修計画も進みました。当館新館の設計を担当した草野建築設計事務所と協議を重ねて、設計案をまとめるとともに、財団法人日本宝くじ協会に資金助成の申請をしました。幸いにも2,500万円の助成が決定し、来年3月の公開をめざして工事がはじまったところです。これにより、かつら文庫は、子どものための文庫活動に加え、全国の文庫や読書活動に関する資料室や小さなミュージアムも備えた、おとなのための「学びの場」へと“進化”する予定です。

お待ちしていた、当館の活動の模様を伝える広報DVD「子どもと本のたのしい出会い」もようやく完成しました。松岡理事長は12年ぶりに1年間のサバティカル休暇をとり、たびたび海外に足をのばすなどして、豊かなときを過ごしたようです。また、事務局を支えてくれる頼もしい新人職員や新年度の研修生2名も決まりました。一同、フレッシュな気持ちでこれからの仕事に取り組んでいきたいと思えます。



広報用 DVD  
「子どもと本のたのしい出会い」  
——東京子ども図書館の活動——

## ■財務諸表

### 貸借対照表 2013年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
I. 資産の部	772,895,062	II. 負債の部	
1. 流動資産	34,164,270	1. 流動負債	15,499,960
現金預金	12,890,379	未払い金	947,814
販売用図書	15,857,206	前受金	13,221,665
機関誌	1,904,863	預り金	1,330,481
売掛債権	3,511,822	III. 正味財産の部	757,395,102
2. 固定資産	738,730,792	1. 指定正味財産	0
(1) 基本財産	654,507,580	2. 一般正味財産	757,395,102
土地	361,224,400	負債及び正味財産合計	772,895,062
建物	214,029,202		
著作権	39,253,978		
定期預金	40,000,000		
(2) その他の固定資産	84,223,212		

### 正味財産増減計算書 2012年4月1日から2013年3月31日現在 (単位:円)

#### I 一般正味財産増減の部

##### ●経常収益

科 目	金 額
基本財産運用収入	19,178,044
基本財産利息収入	95,618
基本財産印税収入	18,671,188
基本財産配当収入	411,238
寄付金収入	18,543,929
一般寄付	9,987,259
3.11 からの出発	7,096,670
助成金	1,460,000
補助金	900,000
賛助会費	13,939,310
事業収入	64,031,412
機関誌購読料	7,644,637
講習会・講演会・お話し	5,687,700
講師料	2,299,016
登録料	33,000
施設使用料	413,000
取材・資料協力費	198,939
出版物売上収入	47,755,120
雑収入	687,831
受取利息	3,729
雑収益	684,102
当期収入合計	117,280,526

##### ●経常費用

科 目	金 額
事業費	109,268,144
人件費	57,293,945
図書館費	35,887
機関誌発行費	3,739,386
講習会・講演会・お話し	1,636,559
調査研究費	477,161
人材育成費	1,170,000
催事費	35,781
広報活動費	2,139,634
在日日系ブラジル人の子どもたちへの読書支援活動	2,146,277
3.11 からの出発	13,545,680
出版費	15,508,797
一般諸費	4,228,053
減価償却費	4,588,584
租税公課	2,722,400
管理費	11,035,972
人件費	6,761,980
会議費	19,910
事務費	2,957,947
一般諸費	453,461
租税公課	62,300
減価償却費	780,374
経常費用計	120,304,116

#### II 期末正味財産の部

科 目	合 計
当期一般正味財産増減額	- 3,023,590
正味財産期首残高	760,418,692
正味財産期末残高	757,395,102